



**新町誕生5周年セレモニー 4/1**

合併から5周年を迎えたこの日、静内・三石両庁舎で、新町誕生5周年記念セレモニーが行なわれました。

6年目のスタートを記念して、酒井町長と五十嵐町議会議長が協力しながら町旗を掲揚しました。

酒井町長は「全国だけではなく、海外にも新ひだかを発信していきたい」とあいさつし、五十嵐議長は「町民の皆さんに見える議会を推進したい」などと話しました。



**三石地区コミュニティバス運行開始 4/4~**

三石地区の患者輸送バスと温泉バスを使って通院や温泉利用、さらには買い物など、誰もが多目的に利用できるコミュニティバスの試行運行を開始しました。

初日となるこの日、第1便発車前に出発式が行なわれ、川上、本桐周辺地区と浦河日赤を結ぶ3往復6便を運行し、31人が利用しました。

コミュニティバスは、来年3月31日まで試行期間として無料で運行します。



**ふるさと観光講座 4/12~16**

二十間道路桜並木を訪れる観光客に心のこもった観光案内ができるように「ふるさと観光講座」がピュアプラザで行なわれ、参加者は講師の話しに耳を傾けていました。



**レキシントン市友好親善訪問団派遣 3/25~4/2**

姉妹都市の米国レキシントン市を、今年度の友好親善訪問団（金田圭司団長ほか10名）が訪れ、学校訪問や市内の施設見学、市長への表敬訪問のほか、ホームステイなどを通して異国文化を学び、交流を深めました。

帰国した団員は「言葉の壁はありましたが、ホストファミリーに大変親切にしてもらい、心を通じ合えることができました」「違う文化に触れ感動しました」などと話していました。



**交通安全啓発 4/6~7**

静内警察署などが町内小学校の入学式にあわせ、新入学児童へ交通安全グッズや町商工会女性部が手作りした「愛の鈴」を配布し、登下校時の交通事故防止を呼びかけました。

**ニュースフラッシュ**

まちのできごと、話題をお届けします。



**白寿祝状授与 3/29**

石丸松男さんが白寿を迎え、酒井町長から祝状、坂本社会福祉協議会副会長から記念品が贈られました。

松男さんは、15歳から歌笛郵便局に勤められ、定年退職後は自治会長や納税組合長、社会福祉協議会理事などの活動を通じて、地域に貢献されました。

毎日の散歩と新聞を読むことが元気の秘訣とのことで、お祝いの言葉に「皆さんに祝っていただき、ありがとうございます」と話していました。



**有機堆肥の販売 4/2~**

「三石和牛有機堆肥」の販売が行なわれ、家庭菜園やガーデニング用にと、多くの方が購入していました。

平日は、町堆肥センター及び静内庁舎農政課、みついし農協で購入できます。

**新ひだか町における被災地への支援**

3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震により被災された方々に、心からお見舞いを申し上げます。

町では、3月22日に町長を本部長とする被災地支援対策本部を設置し、支援活動に取り組んでいます。

震災発生後、町の備蓄食料や飲料水を被災地へ送ったほか、4月2日、3日には町民の皆さんからの日用品などを静内・三石両庁舎で受け付けし、救援物資として被災地へ送りました。

被災者の受け入れについては、4月18日現在で7世帯17名の方を公営住宅や職員住宅で受け入れており、日本赤十字社を通じての義援金受け付けも107件11,070,262円となっています。

人的支援については、3月19日から日高中部消防組合が緊急消防援助隊として延べ15名の消防士を派遣し、被災地での救急搬送などを行っているほか、町職員の派遣についても準備をしています。

このたびの大災害に対し、被災地の一日も早い復旧・復興を心よりお祈りいたします。

**新ひだか町の主な支援状況（4月18日現在）**

- 【町提供物資】  
乾パン3,200食、飲料水(1.5ℓ)120本、毛布500枚、寝袋100個
- 【職員派遣】  
被災地への職員派遣については、被災県から全国町村会を通じての職員派遣要請に対し、保健師の短期派遣を予定しています。
- 【救援物資受付分】  
毛布54枚、バスタオル・タオル1,326枚、ボックスティッシュ 1,002箱、紙おむつ1,475枚



**義援金の受付**

日本赤十字社では、義援金を受け付けていますが、口座名を『日本赤十字社 東日本大震災義援金』と改めましたので、お知らせします。

なお、口座番号等の変更はありません（町広報誌4月号の情報ボックス14ページをご覧ください）。また、静内庁舎福祉課、三石庁舎町民福祉課でも引き続き義援金を受け付けています。皆さんのご協力をお願いします。